

図工科

昨年度の取り組みと成果と課題

【 成果 】

- ・全学年を通して、肯定的な声掛けをしたことで意欲的に作品づくりに取り組むことができた。
- ・どんな作品を作るか話し合いを行うことで、発想が広がり班で協力して活動することができた。
- ・発達段階に応じて ICT 機器を活用することで、効率的に鑑賞、振り返りを行うことができた。

【 課題 】

- ・低学年は、のりの使い方、絵の具を塗るときの筆の置き方、クレヨンでむらなく塗る方法など、用具の基本的な使い方を全員が身に付けられるようにする必要がある。
- ・中・高学年では、基本的な用具の扱いに見られる個人差を解消していく必要がある。また、時間や制作過程の見通しをもって取り組むことが苦手な児童への支援を工夫する必要がある。

学習状況の分析

○知識・技能

- ・低学年は、用具の正しい使い方に課題がある。正しく使うための工夫やコツを指導し、安全に用具を使えるようにする必要がある。
- ・中学年は、新しく使う用具に興味をもって積極的に扱い方を覚えようとする児童が多い。
- ・高学年は、カッター、電動糸鋸、のこぎり等の刃物や、クランプ・ペンチなどの用具の扱いには積極的である。より表現の質を高めるために、制作過程の見通しをもてるような工夫が必要である。

○思考・判断・表現

- ・低学年は、自ら進んで好きなものを発想し表している。テーマに沿って作品をつくるときに友達や参考作品に影響される児童が多く、繰り返し似たものを作る傾向が見られる。
- ・中学年は、ゲームやアニメなど、既存のビジュアルイメージをそのまま引用してしまう児童が一部いる。一方で題材のめあてをとらえ自分なりにじっくりと考えて表現しようとする児童も多くいる。
- ・高学年は、題材のテーマについて考え、自分らしく表現しようとしている児童が多い。構想の際に既習事項を活用することには個人差が見られる。

○主体的に取り組む態度

- ・低学年は、楽しみながら意欲的に作品を作ることができる児童が多い。作品を早く完成させてしまうと意欲が持続しない傾向がある。
- ・中学年は、意欲的に新しい材料や用具に触れる児童が多い。作りたいという気持ちが強いいため片付けへの切り替えがなかなかできない児童もいる。
- ・高学年は、テーマを深く考えながら表現しようとする児童が多い。また、考えすぎて手が進まない児童や、見通しをもって活動することが難しく、授業時間内に完成しない児童もいる。

授業改善のポイント（観点別）

【 低学年 】

○知識・技能

- ・ 用具を正しく使うための工夫やコツを指導し、安全に用具を使えるようにする。
- ・ 日頃から、はさみやのり、色鉛筆、絵の具、クレヨンを使う機会を増やし、使い方を掲示することで正しい用具の使い方を学習させる。

○思考・判断・表現

- ・ 生活経験や想像したことなど、児童の発達段階に合わせて表したいことを考えさせるようにする。
- ・ 造形活動や体全体をつかった題材を増やすことにより、発想や思考が広がるようにする。

○主体的に取り組む態度

- ・ 思いを込めて最後まで丁寧に作品を作ることができるように、児童の表現したいことや丁寧に取り組んでいるところを褒めたり助言したりして、意欲を高める。
- ・ 児童が作品を見合い、良いところを見つける活動を通して、お互いを認め合えるようにする。

【 中学年 】

○知識・技能

- ・ はさみ・カッター・彫刻刀などの用具の扱い方を十分に習得できるようにするために、事前の小作品の制作等を通じて、扱いに慣れさせる。必ず用具の使い方の注意点を掲示する。

○思考・判断・表現

- ・ 初めの制作の段階で、児童それぞれの想像が膨らむように班で話し合いの時間を設ける。

○主体的に取り組む態度

- ・ 経験や興味に合わせた課題設定によって、主体的な活動を促す。また、意欲が持続するように、制作途中で新しい表現方法の提案をしたり相互鑑賞をしたりし、活動に変化をもたせる。
- ・ 毎時間の作品を児童がタブレットのカメラ機能で撮影しオクリンクプラスで振り返り・鑑賞を行う。

【 高学年 】

○知識・技能

- ・ 表し方の変化や、表現の意図や特徴に気付くことができるように、グループやクラスでの話し合いや発表の機会を設定する。また、よい着眼点を共有し、鑑賞能力を高める。

○思考・判断・表現

- ・ 言葉や物語から発想を広げて表す活動を行うことで、思考や表現に深みをもたせる。
- ・ 作るものの意図や美しさ、楽しさを考えて構想できるように意図を言葉で表しながら作るように指導する。材料や用具を使う際は、既習事項を活用し過去の題材を振り返りながら使用法を確認する。

○主体的に取り組む態度

- ・ 見通しを持って学習に取り組むため、毎時間ごとに自分で目標を立てることで計画を意識させるとともに振り返りを行い次の計画に繋げる。
- ・ 毎時間の作品を児童がタブレットのカメラ機能で撮影しオクリンクプラスを使いながら互いの作品の鑑賞を行う。